

# 乙女高原が好き！ 1203号

夏休みスペシャル企画 乙女高原星空観望会とのコラボで...

## 作って,泊まって,飲んで,星見て,自然観察!

杭づくり 8月18日

午前9時に塩平バス停に集合した宮原さん,松林さん,三枝さん,杉田さん,植原の5人で,杭づくりの材料調達に出発。ヒノキの間伐現場です。宮原さんの指示で,いらなくなった丸太を杭の長さに切って,運び出しました。

まず松林さんが杭の長さに切った棒に合わせて切り目を入れます。その切り目にそって宮原さんがチェーンソーで切ります。それを杉田さんと植原が林道まで運び出し,三枝さんが軽トラに積み込みました。合計50本の杭の材料を準備しました。

さて,宮原さんと三枝さんの軽トラに積んだ杭の材料を乙女高原に運んでいったら,そこに待っていたのが,武井さんと雨宮さん。武井さんはロッジまわりの草刈りを自主的にしていました。雨宮さんは午後からの作業の準備をしていました。ここにも乙女高原ファンの姿がありました。

ところが・・・です。急にすごい雨が降ってきました。ずっと待っていましたが,一向に止む気配がありません。そのうち,だんだん寒くなってきました。仕方ないので,弁当を食べて待つことにしましたが,やっぱり雨はやみません。午後からの作業は屋根の下でできるだろうとは思いましたが,この雨で,人が集まってくれるか心配になりました。

それでも,作業開始時刻には雨は小降りになりました。28人の方が杭づくりに参加してくださいました。そのうち11人は,今夜いっしょに星空の観望してくださる「乙女高原星空観望会」の皆さんです。たくさんの方で作業をすると,進むのが早いし,なにしろ,いろいろ話をしながらするのが楽しいです。雨宮さんが材料の先を尖らせてくれます。それをみんなで分担して皮を剥がしました。大勢で作業したので,予定より1時間くらい早く作業を終わらせることができました。



みんなで杭の皮をはぎます

星空観望会 8月18日

宿泊場所である柳平の金峰山荘に移動。星空観望会とファンクラブのメンバー合わせて40人くらいの大所帯です。

食事前に,今夜の観望の準備です。観望会の小林さんや大沼さんの指導で,いただいた星図のコピーに,星座に沿った線を書き入れました。星空を見る邪魔にならないように,懐中電灯には赤セロファンをつけました。その赤い光でもよく見えるように,星座の線は緑色のボールペンや色鉛筆で書きました。今夜,こんな星座が見えるといいなあと思いながら書きましたが,星がいっぱいありすぎて,どの星とどの星を結んだらいいか迷いました。白鳥座,琴座,鷲座のそれぞれの一等星をつなぐと「夏の大三角」です。さそり座,射手座,ペガサス座も書きました。

そして,夕飯。すごい量のバーベキューです。肉や野菜も食べきれないくらいです。アルコールも

盛り上がった懇親会



太陽を観測する望遠鏡

入り、楽しく歓談しました。差し入れを持ってきてくださった方、ありがとうございました。まだまだ盛り上がるのはこれから！・・・なのに、どんどん人が減っていきます。それもそのはず。皆さん、星空観測の準備をしています。雨はすでに上がり、少しずつですが、雲も流れています。その後も、飲んだり食べたりして、おなかもいっぱいになったので、星空観望会に出かけました。

分校北の広場が「天体観測広場」になっていました。いろいろな天体望遠鏡とテントがたくさんです。まるで大砲のような望遠鏡もありました。自作のすごい望遠鏡を持ってきている方もいました。それらの望遠鏡でいろいろな星を見せていただきました。太陽系の一番外側をまわる惑星・海王星までを見せていただきました。青く輝く星でした。

雲が晴れてきました。天の川がよく見えます。夏の大三角もはっきり見えています。雲が流れると、南の空にさそり座もはっきり見えてきました。そのころ、どこからともなく、甘く、いい匂いがしてきました。匂いの元をたどると、なんと、そこに赤提灯！！観望会のメンバーの中には、甘酒をつくって、皆さんに出してくださる方もいたのです。なんとも癒されました。雲が出てきたので、ひと眠りしてまた星を見に来ようと思ったのですが、部屋でそのまま寝入ってしまいました。

### 乙女高原をあるろう 8月19日

翌朝にも雨がザーッと降ったので、ちょっと不安でしたが、天気は安定してきました。朝飯のボリュームもすごかったです。食べきれるか不安でした。金峰山荘さんには、ほんとうに大サービスしていただきました。

さて、朝食後は、まず太陽観測専門の望遠鏡を覗かせていただきました。赤い太陽からたくさんの細かい針のようなものが出ているように見えます。次に、有志で千貫岩を見に行きました。柳平のすぐ先にある高さ40メートルもある巨大な岩です。道脇に立っています。火山の噴火口に向かって下から上がってきたマグマが途中で冷えて、固まってしまったものです。本来なら地面の下にあるはずですが、ここの地面が琴川によって削られてしまったため、このように地上に姿を表したというわけです。まわりの植物も含め、みんなでゆっくり観察しました。

乙女高原へ移動し、「乙女高原を歩こう」を実施しました。参加者は22人。さっそく、おもに植物を観察しながら森のコースを歩きました。こんなとき、フィールドガイドはとっても便利なアイテムです。子どもたちに「ハイ、この花は、フィールドガイドの何番の花でしょうか？」とクイズを出しました。子どもたちはキノコやシャクトリムシなどをどんどん見つけてくれるので、「じゃあ、触ってみようか」。展望台を経て、ブナじいさんに会いに行きました。ブナじいさんのところって、いつ行ってもすごく涼しいですね。草原のコースを下って、終了しました。

金峰山荘の皆さん、乙女高原星空観望会の皆さん、ステキな時間をありがとうございました。



# マルハナバチの調査員を増やしたい!!



8月5日 マルハナバチ調べ隊

すごくいい天気でした。マルハナバチの特徴と調査方法を知ってもらって、自主的にマルハナバチ調査をしてくれるような人材養成をしようというのがマルハナバチ調べ隊の当初のもくろみでした。調査員が増えれば、よりきめ細かいマルハナバチ調査ができるからです。調査を始めて10年がたちますが、このもくろみは達成されていません。とはいえ、10年間のデータはたまりましたよ。もっとも「たまった」だけで「整理」されてはいませんが。

さて、今日の参加者は10人。定員より少ないですが、頭を寄せ合って小さなマルハナバチの観察するにはむしろちょうどいいです。まずは(いつものように)紙芝居を使ってマルハナバチの紹介をし、ラインセンサス調査をして草原内を歩いていきました。ラインセンサスのコースは10年前から変わっていません。同じコースを同じ時間(だいたい1時間)かけて歩き、見られたマルハナバチすべてを記録していきます。

歩き始めてすぐは、なかなかマルハナバチと遭遇できなかつたのですが、お、ついに発見しました。「オオマルハナバチ」の「働きバチ」が「ノハラアザミ」にきています。足には花粉団子を付け、蜜を吸っている動作も見せているので「蜜・花粉」です。「 」で書いたところをワークシートに記録していきます。これで1レコードです。結局、1時間かけて合計65頭のマルハナバチと出会いました。その概要は...

コマルハナバチ 計 1(クガイソウ)

トラマルハナバチ 計 1(ノアザミ)

ミヤママルハナバチ計 4(クガイソウ3, ヤマハギ1)

オオマルハナバチ 計 59(クガイソウ 48, ノハラアザミ 5, チダケサシ 4, キンバイソウ 1, タチフウロ 1)

マルハナバチの種類をみると、圧倒的にオオちゃんが多かったです。また、マルハナバチに人気がある花は、なんといってもクガイソウでした。これらが時期によってどう変化するのか、オオマルハナバチはこの時期だから多いのか、それとも全季節を通じて多いのか、去年と比べてマルハナバチの動向はどう変化しているのか...などは、より多くの、きめ細かいデータを重ねていかなければわかりません。だから、「マルハナバチ調べ隊」なのです。ボランティア調査員を養成したいんです。(もっと贅沢を言うと、データをとりまとめ、整理してくださる方もほしいです)

午後からは「まちぶせ調査」をしました。これは、調査員がある花の前でマルハナバチをまちぶせし、来たハチの頭数と行動とを記録するというものです。一般的にマルハナバチ調査というと、この「まちぶせ調査」です。とはいえ、1回のまちぶせ時間が1時間とか2時間とか、半端ではありません。イベントとしてはやりにくいし、とりあえず調査を体験してもらえばいいので、1回を15分または20分とし、2回してもらいます。今回は時間があつたので、15分ではなく20分を2回やってもらいました。同じ種類の植物を数人で調査することになるので、結果的に一人で調査するよりより多くのデータを集めることができます。

調査方法について説明し、草原の中に散ってもらいました。調査が終わったら、帰ってきて調査結果を報告してもらいました。たとえば、クガイソウをまちぶせ対象植物に選んだ人は、武川さん、風間さん親子、長田さん親子、三枝さん、芳賀さん、井上さんの8人ですが、井上さんは2回ともクガイソウでまちぶせをしているので、のべ9人分=180分のまちぶせ調査をしたことになります。訪れたマルハナバチの合計は、トラ1, オオ49, ミヤマ3, コ2, 計59でした。これを比較しやすいように、1時間あたりに換算すると、トラ若干, オオ16, ミヤマ1, コ2, 計19となります。これをほかの花のデータと比べればいいわけです。たとえば、イケマは三枝さん、芳賀さんのお二人が調べていて、合計40分。その間、オオ26です。1時間に換算すると39となります。イケマのほうがたくさんマルハナバチが訪れていますが、オオに偏っており、より多くの種類のマルハナバチに好まれているのはクガイソウのほうであることがわかりました。

調査結果の速報値と簡単な考察を報告し、「ひとことカード」を書いていただいて、交換にマルハナバチのポストカードを差し上げました。こうして、今年2回目のマルハナバチ調べ隊を終了しました。

すごく楽しくて、すごくうれしいなと思いました。

それと、はちにさわられて、すごくよかったです。

すばらしい天気で、でも、涼しくて、最高でした。





今日はオオマルハナバチがとても多くてびっくりでした。時期によって見られるハチもちがってくるのかなと思いました。こんなにハチが多いのは、花もたくさんあって、乙女高原の環境がよいということですね。天気もよく、たくさんのマルハナバチが見られてよかった。イケマの甘い香りの中、オオちゃん大好き。トラちゃんにも会いたかったのに会えなかったのが残念。

### 9月9日 マルハナバチ調べ隊

3回目のマルハナバチ調べ隊は、ちょうど地元中学校の学園祭の日。毎年、同じ時期に調査しているの調査日を変えるわけにもいかず、カレンダーの並びが都合よくなることを祈るばかりです。中学生の兄弟が



いる小学生の子どもたちまで来れなくなることは確実ですから。参加者があるのか心配していましたが10人の参加者があり、楽しくマルハナバチの観察・調査ができました。

受付は芳賀さんをお願いしました。はじめの会后、いつものように、マルハナバチの紙芝居を見ていただきました。途中、乙女高原にいるマルハナバチの紹介は三枝さんをお願いしました。紙芝居後、草原の中を歩きながらマルハナバチを見つけ、見つけたら、何というマルハナバチが、どんな花に来て、何をしているかを観察しました。観察結果は調査用紙に書き込みました。結果の概要はマルハナバチ総計11頭でした。午後からは待ち伏せ調査をしていただきました。お一人お一人に2種類の調査する花を決めていただき、そ

の花の前でそれぞれ15分ずつ、マルハナバチを待ち伏せしてもらい、どんなマルハナバチが何をしていたかを記録してもらいました。総計すると、以下のようになりました。

|          |     |    |         |     |    |
|----------|-----|----|---------|-----|----|
| ノハラアザミ   | 60分 | 5頭 | ヤマハハコ   | 15分 | 1頭 |
| ヤマハギ     | 30分 | 3頭 | ノダケ     | 15分 | 1頭 |
| タムラソウ    | 15分 | 2頭 | マルバダケブキ | 15分 | 0頭 |
| アキノキリンソウ | 15分 | 1頭 | マツムシソウ  | 15分 | 0頭 |

最後に「ひとことカード」を書いていただき、引き換えにマルハナバチのポストカードをプレゼントしました。担当を宮川さんをお願いしました。さて、家族で参加してくれた小学校4年生のあやかちゃんが、ステキな感想を書いてくれました。ご本人とご家族の承諾をいただき、ここに紹介します。

かんさつできて、とてもうれしかった (あやか/小4)

今日はいろいろな植物や生き物たちにふれあえて、とても勉強になりました。ハチはとてもかわいいイメージがありますが、マルハナバチは毛がたくさん生えていて、丸くて、人になついているので、とてもかわいいハチでした。他にも、イモムシが2ひきいて、とてもやわらかくて、プニプニしていたり、キノコが2種類？生えていて、ひとつは表がイモムシのようなさわりごこちで、うらは紙でできているみたいにヒラヒラしていました。トンボがたくさんいて、手に乗ってきたり、頭の上に乗ったりしてくれました。羽のさわりごこちは、紙よりもうすくて、とてもパリパリでした。

マルハナバチもわたしのズボンや服のピンクのところ、花をまちがえて止まってきました。わたしは、マルハナバチは、みつをすう花を決めるので、花を色で区別しているだなーと思いました。今日はマルハナバチが少し少なくてざんねんだったけど、かんさつできて、とてもうれしかったし、楽しかったので、またやりたいと思いました。



# 今年も小学校の子どもたちを乙女高原案内人が案内

今年も牧丘第一、第三小学校の子どもたちの案内をお引き受けしました。実際に乙女高原に熱い思いを持って活動している乙女高原案内人が子どもたちを案内するのです。きっと子どもたちの心に響いたものと思われます。案内を引き受けてくださった案内人の皆さん、ありがとうございました。

## 7月6日 牧丘第三小学校の自然観察会を終えて（内藤邦雄 / 乙女高原案内人）

昨年は雨で難儀しました。7月6日は予報では雨でしたが、降られずに暑くもなく観察会日和のなか無事終了しました。参加者は3年生、4年生の13名と教頭先生、教師3名で、竹居さんと私・内藤が案内を担当しました。4年生は昨年に続いての観察会なので、3年生4年生の混成で赤組と白組の2班とし、コンテンツによっては4年生に案内を手伝ってもらいました。

地元の竹居さんが乙女高原の歴史を話してくれました。ロッジ前の広場で、全員がジャンプ。足の感触はと訊ねると「かたーい」という返事がかえってきた。また、多勢の人が立ち止まる休憩テーブルの周りに、里地に生えているオオバコが何故多くあるのか、どうして乙女高原にやってきたのか考えてみる。ルートは森のコース 山頂 プナ爺草原のコース。草原に入ってすぐのところヤマオダマキが下向きに咲いていたので、大きめの手鏡で普段は見られない花の中を観察、「きれい」の声があがる。森のコースに入って直ぐ右側の広い所でジャンプ。感触を訊ねると「ふわふわする、やわらかーい」という声。何でだろうと聞いてみる。するとさすが4年生しっかり答えてくれました。

同じ場所で赤組・白組に分かれて「シラカバとミズナラの赤ちゃん探し」をしてもらう。ミズナラの幼木は多く見つかったが、シラカバの幼木は一本も見つからない。シラカバの赤ちゃんは道中どんな所に生えているのか調べてもらう。シラカバの幼木が見つかったところで、陽樹・陰樹のことを簡単に解かりやすく説明した。森のコースでは、他にウラジロモミが枯れてしまったのはどうしてだろう？との問いかけに4年生が答えてくれました。ウラジロモミの幼木の年齢あてでは、1年の伸びをヒトに数えてもらいました。1m弱の木でも20年以上なのにちょっとびっくり。

この日の最高のプレゼント、この時期晴れていても殆ど見ることができない富士山が見れたことでした。霊峰富士山を見ながら「富士山」を全員で合唱、以前は誰も歌えなかったのに私がびっくり。先生に訊ねると4年生の音楽の本に載ったとのこと。ここで1頭のマルハナバチに出会いました。ピークの三角点の標高は？ 1700m。小学校の標高は？の問いかけに700m強との返事。標高が100m上がるごとに気温は約0.6度下がるので乙女高原が涼しいのが納得できた様子。プナ爺さんでは、ウエストを班毎にメンバーで手を繋ぎあって測りました。ハンゴンソウの葉を擦って匂いを嗅いでもらったり、1人にニガナの葉を噛んでもらい苦い味がしたことを仲間伝えてもらいました。

ロッジの見える稜線では全員で「ヤッホー」、やまびこを楽しみました。すっかり空いたお腹をロッジ前の広場でシートを広げ皆で弁当タイム。お腹が一杯になったところで、プナ爺さんの胴回り5mのヒモの輪の中に13名の児童、先生、案内人が入って和気あいあい記念撮影。5mの輪に35人が入った頃を昨日のように想いおこしながら私も楽しみました。子どもたちの純で素直な心にふれることができ、私自身も心が癒され豊かになりました。ありがとう。

## 8月31日 牧丘第一小学校の子どもたちの元気に感謝（三枝かめよ / 乙女高原案内人）

予定時間 9:30～11:30。実際 9:30～12:20。乙女高原は昨夜の雨で草原内がしっとりとして足元がどうかと心配しましたが、観察会が始まる9:20、笛川中学の大型バスを向かえる頃は気温も26度、ロッジ前のベンチも乾き、観察会日和となりました。私たち案内人は内藤さんと植原先生との連絡の中、森の中でのミズナラとシラカバの赤ちゃん探し～陽樹と陰樹が混合して生えているのを確認して、生徒への説明内容の変更。シシウドの雄花と雌花の転生の様子+キハゲハの幼虫を確認して、今回この説明を追加することになりました。乙女での自然観察は初めてという第一小学校5年生35名と教師3名、途中から校長先生、竹居・内藤さん・三枝の計42名でした。1チーム11～12人で3チームを編成しました。

始めの会で案内人の簡単な自己紹介。竹居さんの乙女高原の歴史の説明、山梨県で初めてのスキー場は麓から4時間かかってスキーを担いで行き、2時間すべり4時間かかって麓まで歩いて帰ったこと、手塚小屋、梨高寮、グリーンロッジが作られる前のスキー場の広さなどともわかりやすい内容でした。

注意事項として、ハチが周囲に来ては払いのけたりせずじーと静かにするよう最初に言いました。三角点で丸くなり恩賜林の説明をしていると子どもたちが急に静かになり、身動きをやめ、ある一点に視線を集中しています。見ますとメモをしているお子さんの手に虫が止まっています。アブでした。子どもたちはハチと思ってじーと静かに石になっていたのです。説明を中止して「ハチでなくアブですから心配ないです」と話して様子を見ていましたが、アブは手からなかなか飛び立ちません。お子さんの手に指を近づけると、今度は私の指に移動してなかなか飛び立ちませ

ん。仕方がないので、アブを指先に止めたまま恩賜林と三角点の説明を終えました。子どもたちが注意点を守りながら耳をかたむけてくれた一時でした。

ロッジ前の広場で目をつむり、五感を働かせ高原の空気の匂い・風のさわやかさ・飛行機の音を聞きながら・ジャンプしてもらいました。「足の感じは？」とたずねると「堅い」との声。ルートは森のコース 山頂【休憩】 プナ爺さん 草原のコース ロッジ。森のコースに入りミズナラとシラカバの林の中でジャンプ。「足の感じは」とたずねると「少しやわらかい」「さっきとは違う」との答え。同じ場所で今度は陽樹・陰樹の説明を行い、ミズナラとシラカバのあかちゃん探しです。B チームはミズナラチーム。子どもたちは相談しながらミズナラの葉っぱのカードを幼木にかけています。11 人全員がミズナラの赤ちゃんを見つけることができました。シラカバチームは難しそうです。ミズナラの幼木は育っていますがシラカバの幼木はありますが、林の中でははっきりわかるほど育っていません。森のコースの途中、シラカバの樹が見える草原と林の境のところでもう一度陽樹・陰樹の説明を間単に行いました。マルバダケブキにアサギマダラが2~3 頭いました。蝶の数え方は一匹二匹でなくて一頭二頭です。子供たちちょっと驚いた様子。

林の中ではシラカバ・ミズナラ・アカマツの幹に触って子供達は樹の肌の違い・かたさの違いを感じて楽しんでいました。ウラジロモミの枯れているのはどうしてかな、どうして幼木の枯れているのが多いのかなと考えてもらいました。幹のかじられている様子を見て子供たちが「鹿だね」と。また、ウラジロモミの年齢あて。数えていると「へーへー」の声。1m ぐらいでも20 才・子どもたちよりお兄さんのモミの木でした。富士山に見える場所。残念、今日は雲も多く見えません。又、暑くて休憩は林の中に入ってからです。ピークの三角点で標高は？ 子どもたち、乙女高原のパンフレットを見て「1700m！」。「第一小学校の標高は？」先生に聞いておきました。560m ぐらい。乙女は現在26 です。標高が100m 上がるごとに気温は0.6 下がります。では学校の温度は？ 宿題です。

プナ爺さんのところではA・B・C チームごとにプナ爺さんを囲んで記念撮影。毎回案内をしている竹居さんの撮影です。手際よく慣れていきますね。又チームごとにプナ爺さんのウエストをメンバーで手を繋ぎ合って測定。稜線では各班みんな「ヤッホー」。それを聞いてロッジの庭ではバスの運転手笹本さんが頭の上で丸印。子どもたちは思い切り大声を出して山彦を楽しみました。

時間がありません。もう11 時30 分です。草原のコースではツリガネニンジンを見て、わー可愛いといいながパンフレットの見た花に丸印をつけていました。シシウドの花は雌花が何段も実をつけています。雄花から雌花への転生の説明は不思議そうな様子でした。その説明よりも5mm~5cm ぐらいのキハゲハの幼虫が花の上に数匹いるのにドキドキしていました。セリ科であの大きなアゲハチョウになるんですかの質問です。ロッジのA 班から「12 時を過ぎました」の知らせが届き、急いで戻り集合です。終わりの会。各班代表者の感想、プナ爺さんのウエスト発表6m が多かったです。プナ爺さんの胴回り5m のひもの輪の中に35 人入ってもらいました。残念、リュックを背負っているためひもが足りません。6 年生はみんな入れたといていたのに、時間がなかったので、リュックをおいてやり直しをする時間はありません。最後にこの草原を守るために11 月23 日の草刈ボランティアの話の内藤さんより行い、キッズ班の仕事の内容を話して参加をお願いして、子供たちのバスを見送りました。初めての案内で竹居さん・内藤さんにずいぶん助けをいただきありがとうございました。また、子どもたちの元気に感謝です。

## サヨナラ 成城学園の岳樺荘 50 年もアリガトウ

乙女高原の駐車場の向かいにある山小屋『岳樺荘』。これを建てたのは、なんと50 年前の大学生でした。9 月8 日、50 周年を迎えたこの山小屋の記念式典がはやぶさ温泉で行われました。乙女高原ファンクラブもご招待を受けましたので、会を代表して代表世話人の宮原さんと植原が参加させていただきました。この小屋は成城学園



乙女高原の入り口で、来訪者を温かく迎えてくれた岳樺荘

生物部のもので、50 年前からこの小屋に寝泊まりしながら、乙女高原の自然を調べていらっしやったそうです。乙女高原ファンクラブの大先輩といえます。

悲しいことに、この小屋、この式典を最後に、解体してしまうそうです。「小屋を建てたなら、最後まで建てた本人が責任を持つ」というポリシー、すばらしいと思います。式典の中で多くの方とお話させていただきましたが、人間的にもすばらしい方々ばかりでした。記念誌や記念DVD もいただいたので、機会があったら、ぜひお見せしたいと思います。多額のご寄付もいただきましたので、報告します。

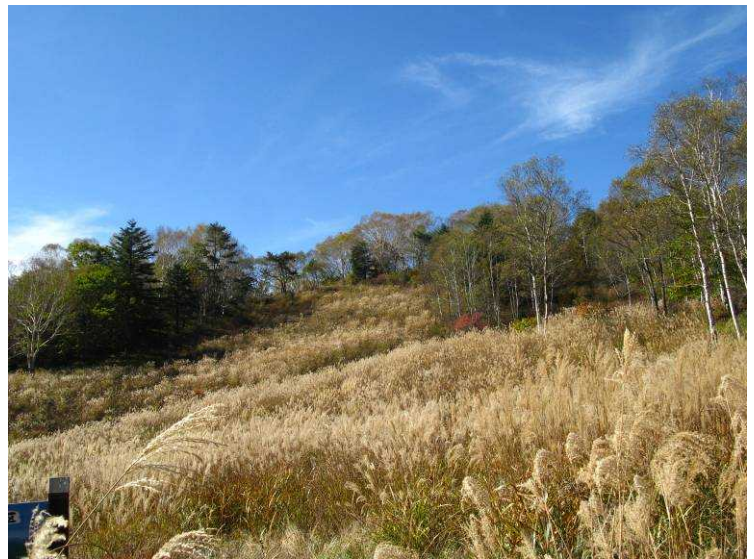
乙女高原では、手塚小屋が壊され、山梨高校の寮がなくなり、グリーンロッジが休館（閉館？）になり、そして、成城の岳樺荘まで。ずいぶんとさびしくなっていました。

# ススキ化する乙女高原...どうする？！

皆さんは「乙女高原のススキ」の現状について、どうお思いですか？ どうお考えですか？ ファンクラブの世話人会でも「ススキが増えたじゃんねー」「どーにかしんとねー(どうにかしないとね)」と話題になったこともあります。定量的に調べているわけではありませんが、ススキ(の面積)が増えていることは確かだと思います。実際にススキの勢力を削ぐために、ススキの株に農業用のマルチをかぶせる実験をしたこともあります。

「ススキなんか刈っちもーじゃん(刈ってしまおう)」という意見がある一方、「ススキが日の光にキラキラしてて、綺麗じゃんねー」という感想もあります。

では、どうしたらいいと思いますか？ 大切なことは、多くの方からご意見やお知恵をいただき、それらをまた、多くの方にお返しし、議論を深めることだと思います。議論のきっかけとして麻布大学の高槻成紀さんの文章を紹介します。読んだ上で、多くの方のご意見をお聞かせいただきたいと思います。



## ススキ群落に思う (高槻成紀 / 麻布大学教授・野生動物学研究室)

乙女高原には何度も寄せてもらいながら、秋の乙女高原のようすを見ていなかったの、見て来ました。意外でした。もっと虫媒花が多いと思っていたからです。

頭の中でぐるぐるといろいろなことを思いました。乙女高原で何がおきているかということです。

もともと森林であった場所が伐採され、草原になり、刈り取りによって管理されて来たとなると、木本の進入、生育を阻止し、遷移の進行を抑制してきたので、草本類に有利に働いていたはずで、その管理(秋の草刈り)が一定の効果を持続するはずであれば、ずっと虫媒花が多いままのはずで、ススキのさばるようになるのは別の要因があり、たぶんシカというのがあるらしいストーリーです。

もしシカのせいだとすると、どういうことでしょうか。シカはススキを食べないわけではありません。金華山ではむしろ好んで食べるくらいで、ススキがへってシバに変わったり、場所によってはワラビやハンゴンソウになります。同じように食べられても植物の反応は違います。イネ科は成長点が低く、上部を食べられても脇から新しい芽を出せるので、耐性、再生力がありますが、双子葉草本類は食べられるとダメージが大きいです。春に両方が食べられたらススキに有利になるはずで、そうするとススキに被陰されて虫媒花が抑制されるというのはいえることです。たぶんそういうことが起きているのだと思います。

ススキ群落にカンバなどがあるとその下にはススキがなくマルバダケブキが優勢です。このことはススキが暗いことに弱いことをよく示しています。暗くて乾いているとミヤコザサになります。これでわかることは、明るさと乾湿がこの優占種を決めているということです。もともと森林を伐採し、刈り取りをするという管理はススキに圧倒的に有利になります。むしろ虫媒花が多かったことのほうが不思議なくらいです。

少し前にモンゴルの草原にいました。マツムシソウやワレモコウがたくさんあって、虫がにぎやかにブンブンと飛んでおり、ヒョウモンチョウやときにはアポロ蝶もいて感激しました。量は少ないもののナデシコ、ツリガネニンジン、フウロソウなどもあり、乙女高原との共通種が多いのは驚くほどですが、ヒエンソウやレイジンソウがたくさんあるのは違いました。もうひとつの違いは放牧圧が少し強いところではウスユキソウが多かったことです。それよりも忘れていけない大きな違いはススキのような大きくなるイネ科がないということです。Stipa というノゲのとても長いイネ科が多いのですが、高さはせいぜい40cmで、それを思うとススキはモンスターのようです。モンゴルではイネ科よりも虫媒花のほうが背が高いのです。ススキのようなモンスターが育つことができるのは、日本の夏が高温多湿だからに違いありません。

こう考えてくると、まるで私がススキ嫌いだと聞こえるかもしれませんが、実はそうではありません。むしろ私はススキファンです。私は長い間シカと植物の関係を学んできましたが、その中でササ、ススキ、シバは中心的な存在でした。生態学的にとってもおもしろいのです。それとは離れても、私はススキを実に美しいと思います。おしべとめしべが見えることの花の美しさは格別ですし、それが終わって銀色に輝くようにな

ったとき、秋の日が当たるのを逆光気味に見る時の美しさは息を飲むようです。私は思うのですが、ヨーロッパではバラ、中国では牡丹が愛でられます。まさに華麗なあるいは妖艶な美しさです。でもその感覚はあまりにダイレクト、まるで現代の低質なアメリカ映画の好みです。「これでも怖がらないか」「これでも感動しないか」、あまりにも直截で単純です。それを思うとき、ススキの美しさはどうでしょう。地味と言えば地味、しかし決して飽きのくるものではありません。その美的感覚の高度なことに驚きと誇らしさを感じます。しかも、それは貴族や文化人のものではなかった。毎日土に向かい汗を流す農民がイネ科の草に美を見出してきたのです。

ススキはそれだけでも美しいですが、それは秋の七草の舞台でもありました。それは里山を代表する景観であり、ススキは屋根を葺くのに使われ、家畜の餌にもなりました。そしてタヌキやカヤネズミやキジやモズ、無数の昆虫の生活の場でもありました。東京都で戦後最も減少した群落はブナ林でも雑木林でもなくススキ群落（茅場）なのです。私は東京西部の日ノ出町でススキ群落の復活のお手伝いをしています。

そこまでをお話した上で、やはりかつてのマツムシソウが咲き乱れていた乙女高原を懐かしむ気持ちを否定するのは正しくないでしょう。ただ、そのときはきちんとした議論をして、自分たちはススキ群落よりもマツムシソウが咲く草原を好むので、そういう管理をすると意志を明確にすることは避けられません。穏やかではない表現ですが、そのための理論武装は必要だと思います。

ではどうするか？ひとつは試みとして春か初夏にススキだけの選択的な刈り取りをしてススキを「叩く」ことです。これを乙女高原全体で実行するのはたいへんですから50m四方くらいの実験エリアをとってやってみることで。作業がどのくらい大変か、ススキがどのくらい抑制できるか、それによって虫媒花がどれだけ挽回できるかを評価して、いい方向にゆくようだったら規模を拡大するのです。

乙女高原ファンクラブ・市・県が作られた実験柵は2年でススキが抑制されて虫媒花が増えることを示したといえると思います。これを単純に理解すると、草原全体を大柵で囲えばよいということになるかもしれませんが、それが「良い管理」かどうかは、上記のように「植物はきわめて複雑な要因の効果によって複雑な動態を示す」ことを十分に考慮したうえで判断しないとイケないでしょう。

そんなことを考えながらススキ群落の中を歩いていました。



## 7月16日 夜の乙女高原

スマイル観察会の最中、乙女高原案内人であり三ツ峠ネットワークもやってらっしゃる山本さんから「乙女高原ではヒメボタルが出ますか？」と聞かれたのがきっかけです。ヒメボタルはちょうど梅雨明けごろの夜、森の中に出てくるホタルなんだそうです。出てくるのは1年のうち、この時期の1週間だけ。「乙女高原の森の中で、ホタルの光が見られるなんて、幻想的だなあ。ぜひ見たいなー」と思い、連日暑さが続くこの日の夜なら出てくるかなーと、乙女高原に一人で向かいました。途中、ときどき、車をとめて、ライトも消して、まわりの気配に神経を集中させましたが、森の中で光るものは見つから

れませんでした。

その代わりに、ところどころで、動物たちを見ることができました。シカは行き帰りで合計9頭。そのうち1頭はじっくり立ち止まってくれたので、写真に納めることができました。鳥居峠の手前では、あんなにしっぽが長くて、黒っぽくて、背が低かったのでハクビシンだろうなあという動物が前方遠くを駆け逃げていきました。まだまだあどけなさの残る子ギツネに会ったのは柳平。3頭身の頭でっかちが、とってもかわいかったです。しばらく車に並走してくれました。

自宅はあんなに暑かったのに、乙女高原はひんやりしていました。「だめかな」という思いがよぎりましたが、発光ダイオードのヘッドライトを付けて、歩き始めました。ときどき、ヘッドライトの明かりを消して、夜のやみに意識を集中させました。案の定、ホタルの光は見つかりませんでした。すぐ近くからシカの警戒音が聞こえてきたり、夜の花たちの様子を写真に納めたりと、楽しい夜の観察でした。

一周してロッジに帰ってくるころには、少し、空が晴れてきました。天の川と、天の川に沿って真上を飛んでいる白鳥座。白鳥座の一等星デネブと「夏の第三角」を形づくる鷲座のアルタイル、琴座のベガも見えてきました。北の空には北斗七星。なんてきれいなんでしょう。帰る気が起こらず、アスファルトに座って、しばらくは星空を眺めていました。そういえば、星空を眺めるなんて、いつ以来でしょう。また、ぜひ、夜の乙女高原を訪ねよう、そう誓って、車のエンジンをかけました。

今年も乙女高原の草原を守るために、いっしょに汗をかきましょう

## 第13回草刈りボランティア 11月23日(金・祝)

今年で13回目となる乙女高原の草刈り作業。刈り取った草を焼山の琴川ダム残土処分場に持ち込んで、そこを「第2乙女高原」に誘導するという「藁撒き」プロジェクトを継続。キッズボランティアとして「ブナじいさんの根元に落ち葉のふとんをかけましょう」も継続です(子どもたちの参加は任意です。これに参加してもよし、大人と一緒に草刈りをしてよしです)。安心してお子さん連れでご参加ください。晩秋の高原でいい汗、かきましょう。

### 【今年の最重要注意事項】

- ・林道・塩平～焼山峠線が通行止めになる予定です。<sup>ままぐさ</sup> 山口～柳平線経由でおいでください。(県営林道通行規制情報 <http://www.pref.yamanashi.jp/rindoujyouhou/> 電話 055-237-1111/代表)
- ・一般参加の皆さんは手刈りのみにしてください。(刈り払い機使用は、恩賜林組合の皆さんなど、主催者がお願いした方のみとします)
- ・林道への路上駐車は厳禁です。できるだけ相乗りで来てください。(刈り草をゴミ収集車に入れる作業をしなければならないので、路上駐車が一番困ります)
- ・「午前中の作業終了 記念写真 昼食」という流れにします。(今までは昼食後に記念写真を撮っていましたが、今年は午前中の作業終了後に撮影します。作業を時間で区切りますので、ご承知おきください)

日 時 11月23日(金・祝) 少雨決行 午前9時半～午後2時 荒天の場合25日(日)  
主 催 山梨市・山梨県・乙女高原ファンクラブ  
集 合 乙女高原グリーンロッジ  
持ち物 弁当, 飲み物, 軍手, 雨具, おわん・はし(豚汁用), お持ちの方は鎌などの道具。  
参加費 無料(主催者負担で保険に加入)  
内 容 草刈り, 草の運び出し, ロープ回収, キッズボランティア, 豚汁作りなど

11月18日(日)午前10時ロッジ集合で、草刈りの下見と準備を行います。  
ご都合のつく方は、ぜひ、ご参加ください



草刈りボランティア2011の記念写真(古屋光雄さん撮影)

# 乙女高原ファンクラブの事務局だよ

会報の発送作業は鳴沢村の加藤信子さんと山梨市牧丘町の竹居小枝子さんのお二人に交互にお願いしています。皆さんがこの会報を読めるものお二人のおかげです。今年も市主催の焼山峠周辺の美化活動が行われます。11月1日(木)午前9時焼山峠集合です。出席できる方はファンクラブ事務局までお知らせください。弁当が出ます。

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

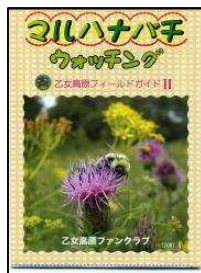
乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』(A4判 186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1,000円,送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で1冊につき1,080円を送金してください。



乙女高原ファンクラブ

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください



## フィールドガイド スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

## フィールドガイド マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態,ファンクラブで行っている調査,乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。

## フィールドガイド 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。

## 乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の2種類があります。会報(ニュースレター)は年4回発行予定です。年に1度は全会員に送っていますが、この号も含めてあとの3号はサポーター会員には送っていません。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」という内容のファックス,メール,手紙等を事務局までお届けいただければ,いつでも,だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分,大きくなります。
- ・普通会员には年4回,サポーター会員には年1回,ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可),サポーター会員にはありません。

## 乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3  
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp  
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。  
WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ